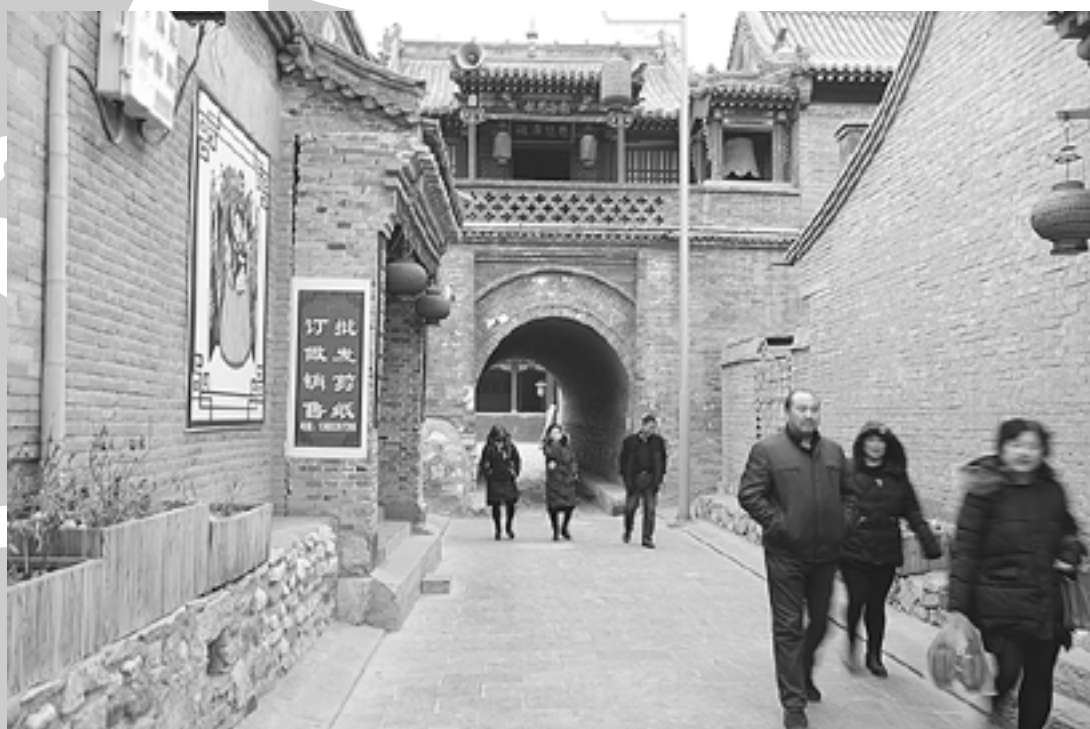


緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



蔚県暖泉鎮の西古堡には古い建造物が今も残されている。映画やドラマのロケ地として使われることも。

Contents

- 2017年 年頭のご挨拶…………… P 2
- 年末カンパお礼…………… P 3
- 2017春のスタディツアー参加者募集…………… P 5
- 関東ブランチャール・タウンプロジェクト…………… P 6

2017.1
173

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク



2017 年 GEN の活動は新たなステージへ 年頭のご挨拶 前中 久行（GEN 代表）



2017 年の新春を迎えました。今年は緑の地球ネットワーク GEN が新しい一歩をふみだす年です。

1992 年に始まった大同の黄土高原での緑化活動は四半世紀を超えました。初期の緑化地では高さ 8m を越える松林になり、むき出しだった土壤浸食地が一面に緑で覆われた風景を各地でみる事ができます。アンズ果樹園による農村への経済効果や南天門自然植物園での多様性のある植生回復などの成果

が大同地域に確実に浸透定着してきた印象を強く感じたここ数年でした。

このように嬉しい状況で新年を迎えることができたのは多くの人々のご協力ご支援のおかげです。会員の皆様、ご支援いただいた企業、団体、各種組織および個人の方々に深くお礼申し上げます。また広く関心をもっている方々にお礼申し上げます。大同現地の厳しい条件のもとで計画監理や植栽地の管理を行っている大同緑色地球ネットワークの皆さまに心から感謝します。

GEN による緑化は、累計で 5922 ヘクタール、1887 万本に達しました。GEN の緑化成功が呼び水となって、国や省の大緑化プロジェクトが周辺で行われています。

いっぽう、緑化がすすんだ反作用として緑化可能地が残り少なくなり、大同では新しい緑化用地を見つけるのが難しくなっていました。このために用地が確保しやすい地方を探してきました。それが河北省張家口市蔚県です。昨年 12 月に東川事務局長と高見副代表が現地を訪れて緑化協力や交流などについて基本的に合意してきました。今

年の春から緑化を始めます。

新規緑化地の確保と実際の緑化作業には現地農村の人びとの同意が必要なので、国中央、省、市、県、郷の組織を介してすすめます。具体的には共青团を通じて行います。共青团は対外交流部門をもっているため、定款にある「地球環境のための国境を越えた民衆の協力」のカウンターパートとしてより適切であると考えます。

蔚県は大同市に接し同じく黄土高原に属するので経験を生かすことができます。また今後の大同との交流や既緑化地の見学にも便利です。

現地は大変熱心です。しかし外国との共同緑化プロジェクトの経験はありません。高見副代表のブログ「続・黄土高原レポート」にある大同の活動初期にみられ今となつては懐かしい様ざまな事象も再び起きるかもしれません。率直な意見交換や議論をし相互に理解して協力をすすめます。講演会、学習会、自然と親しむ会、支部活動、ツアーなど様ざまな方たちでの参加とご支援、ご協力をお願いします。

運営懇談会を開催しました

11 月 19 日（土）に大阪の弁天町生涯学習センターで、11 月 26 日（土）に東京の立教大学で運営懇談会を開催しました。

運営懇談会は 2009 年より毎年開催しており、今年で 7 回目です。

大阪会場は 22 名、東京会場は 17 名が参加しました。

2016 年 6 月の会員総会で山西省大同市での 25 年におよぶ緑化協力に区切りをつけ、新たに河北省張家口市蔚県での協力をおこなうことが決まりました。

運営懇談会では高見副代表が新しい

協力地蔚県についてスライドを使って紹介し、それを受けてこれから蔚県でどのように活動を進めていくかについてや、これまで大同でしてきた緑化活動の実績をどのように残していくかについてなど、今後の関わり方についても忌憚ない意見が交わされました。



大阪会場には関東から参加して下さった方も。

国内活動においては、世話人の上田信さんより関東ランチが西伊豆でおこなっているプロジェクトの報告があり、これからどのように発展させていくか話し合われました。

手作りお菓子を売って緑を増やそう

門脇 美貴子（北京市）

北京在住の門脇美貴子さんがリーダーとなって、ガールスカウトの子供たちがバザーで集めたお金を GEN に寄付してくださいましたのでご報告します。

20 年ほど前のことですが、学生だったわたしは、仲間と大同へのスタディーツアーに参加しました。当時まさか自分が北京に住むとは思っていませんでしたが、今では二児の母として北京で子育てをしています。

また、ご縁あって、アメリカのガールスカウトのリーダーをしています。そして再び GEN と出会い、ガールスカウトで何かできることがないか探し始めました。

そんな折、国際学校でクリスマスバザーがありました。

わたしとともに前まえから細々と勉強し続けてきた Girl Scouts Beijing Troop78 の女の子たち（8、9 歳）は意気揚々と、来客に自分たちが GEN のために募金活動する理由を説明し、手作りしたケーキやクッキーを売りました。

勉強するにあたり理解が難しい子には苗木を買って GEN に植えてもらうために、お金を集めようねと説明していただいたので、その Baby trees がちゃんと育つのかとても心配で、空気の悪さは影響するのかとか、木がどこで育つのかとかなどの質問が出ました。

バザーでは 1085 元売上げました。少額ですが国境を越えた女の子たちの努力で得たお金です。全額寄付させていただきました。この子たちが 20 年後に中国を訪れたときに緑の土地が増えていますように、と願います。そのため今は、継続的に活動に協力できれば、より理解が深まるかなとも思い、会報を英訳しつつ引き続き説明しています。

子供の活動を通じて保護者も興味を持つようで、ちょっとずつ理解を得ています。さらなる協力のチャンスを作

るようがんばります。



がんばってお菓子を販売してくれた少女たち

南天門自然植物園 ご協力の報告

山西省大同市靈丘県の南天門自然植物園の仕上げにあたり、公益社団法人国土緑化推進機構 緑の募金よりご協力をいただきました。ありがとうございました。

年末カンパにご協力いただき ありがとうございました

前号の会報で年末カンパのご協力を呼びかけたところ、11 月 1 日から 1 月 5 日までに 86 件、2,087,958 円の寄付があつまりました。みなさまのご協力に感謝いたします。

みなさまにはよいお正月を過ごされたでしょうか。今年は暖かく、初詣も大変なごわいでした。

さて、先号でお願いしました年末カンパですが、おかげさまでたくさんのご協力をいただき、11 月 1 日から 1 月 5 日までの間で、2,087,958 円（86 件）になりました。昨年度同期間が 1,354,903 円（100 件）だったので、この期間にお寄せいただいたご寄付は 73 万円ほど多かったことになります。ありがとうございました。

1 月 5 日までの累計は、4,981,608 円（273 件）です。予算 790 万円に対する達成率は 63%、昨年実績 6,951,579 円に対しては 71.7%です。

昨年度同時期累計の 4,776,846 円（255 件）と比べて 20 万円ほど多くなっていますが、昨年度は 2 月に大口のご寄付をいただいているため、今年度の寄付が昨年度実

績を上回することはむずかしそうです。重ねがさねで恐縮ですが、可能な方は、ご寄付、新規ご入会など、お力添えをいただきますようお願いいたします。

無料でできる gooddo のワンクリック支援もあります。http://gooddo.jp/gd/group/gentree/?from=fbn0 にアクセスして、赤い「応援する！」ボタンを押すだけ。毎日の習慣にして、お知り合いにも広げていただければ幸いです。



北京の青空・暖泉鎮の打樹花・永寧山のリンゴ 2016 冬 中国訪問記

2016 年の冬は 12 月 7 日～ 13 日の日程で高見邦雄副代表と東川貴子事務局長の 2 名が中国の北京市、張家口市蔚県を訪問しましたのでご報告します。



今春のツアーで訪問予定の蔚県暖泉鎮

今春、蔚県への初めてツアーを派遣するにあたり、いろいろと決めないといけないことがあります。9 月に相談してくるはずだったのですが、ほかのことで時間をとられて十分に話し合うことができませんでした。そのため、12 月に高見副代表と東川事務局長が北京と蔚県を訪ねました。

北京は大気汚染が問題になっていますが、私たちが訪ねたときにはさほどでもなく、ややよどんでいた 8 日の朝も地下鉄で移動している間に強い北風が吹きはじめてあっという間に青空になりました。赤色警報が続くときには、空気清浄機がフル回転する室内でも高レベルの汚染になるそうです。

9 日には北京の日本大使館で行われた外務大臣表彰の伝達式に参加しました。私たちの大同での事業にも協力してくださった中華全国総工会の白立文さんが表彰されたのです。全部で 5 名の受彰者の中には日本人も 1 人おられ、流暢な中国語で受彰スピーチを披露されました。高見副代表が受彰した 2012 年は反日デモで伝達式が中止になりましたが、もし行われていたら中国語でスピーチをしないといけなかったかもしれません。

10 日、通訳を引き受けてくれた中国国際青年交流センターの崔斌さんと 3

人で、長距離路線バスで蔚県に向かいました。オリンピックスポーツセンター近くの北郊バスターミナルから約 4 時間で蔚県に到着。昔よく見たぎゅうぎゅう詰めのバスを想像していたので、普通にゆったり座れて快適だったのは予想外でした。到着後、靈巖寺、蔚州署を見て、夕刻暖泉鎮へ向かいました。明清代の古堡がたくさん残ることで知られ

るこの鎮には、もうひとつとんでもない名物があります。溶けた鉄を柄杓ですくって城壁にぶつけ、花火のように楽しむ打樹花です。GEN の FB (<https://www.facebook.com/genfcbk>) にも動画をあげていますが、いったい誰がこんなことを思いついたのか、いまでは 4 人しかできる人がいないというもうなずけます。本来元宵節（旧暦 1 月 15 日）の行事でしたが、観光化して毎週末に行われています。厳寒のこの時期は屋内で、雑技風のお芝居と組み合わせ 1 時間ほど、劇も言葉がわからなくても楽しめたし、クライマックスの打樹花は大変な迫力でした。ツアーでもご覧いただく予定です。元宵節には屋外で 1 日 4 回公演するそうです。全国から集まる観光客のために道路の拡幅工事中でした。

翌日の午前中は市場と新しくできた蔚県博物館を訪ねました。蔚県は歴史と文化をととても大切にしているのも驚きですが、オープン以来入場制限が続いているほど見学者がいるのもびっくりです。未完成で空のケースもありましたが、見応えのある展示でした。

午後からは柏樹郷永寧寨村に植樹予定地を訪ねました。車で山を登ったところにある、整地もすんだ予定地はひろびろとしています。車を停めた場所とは浸食谷で隔てられています。ここでツアー参加者が植えられるのか？と聞くと、この場所はちょっと無理とのこと。もう少し行きやすい場所があるから、そこで植えようと提案されました。9 月に訪ねた時に果樹を植えると言っていた隣接地には、すでにリンゴが植えられ、寒風にそなえてポリフィルムで幹も枝も巻かれていました。共青团メンバーと郷の責任者にツアーで必要なことを伝え、相談して、諸々の手配と見積りを依頼してその日は終了。

翌日、再び暖泉鎮に向かいました。西古堡を訪ねるためです。古い建造物が残った一面に、ミニ博物館風に改装された古い家、喫茶店や切り絵屋さんなどの商店、現役の住宅が入り混じり、住人のおじいちゃんが歩いていたりに、なんともいい雰囲気です。住宅には「人が住んです。立ち入り禁止。罰金〇〇元」と貼紙がしてあるのもご愛嬌（住人は大変でしょうけれど）。映画や TV ドラマのロケも誘致されていて、姜文監督・主演で香川照之が出演した「鬼が来た！」（2000 年カンヌ国際映画祭審査員特別グランプリ）の



野外市場のようす。売りものは香辛料や衣類などさまざま。



ロケ地でもありました。ツアーでも訪問予定です。

4 月のツアーは、蔚県で活動する最初のツアーです。いろいろ不備があるかもしれませんが、大同では見られなくなってしまう、木を植えるのに適し

た場所がまだまだこんなにあるぞー！という風景と、昔の風情をそのままに質素に暮らす街や村、人びとに、ファーストコンタクトできる唯一のチャンスです！ ふるってご参加ください。（東川）

2017 春の黄土高原 スタディーツアー

今春、いよいよ新しい緑化協力地での植樹がはじまります。記念すべき第 1 回のツアーに、ぜひご参加ください。

河北省張家口市蔚県は、大同市広靈県の東隣。古くは蔚県、広靈県、南隣の涿源県の 3 県で蔚州と称され、山西省に属していました。気候も自然条件も、大同とほぼ同じです。

現地受け入れは共青团の若い人たち。外国との関わりがなかった中で一生懸命準備してくれています。大同とはまた違った、地方の町と農村を体験できます。

●日程：4 月 8 日（土）～ 13 日（木）5 泊 6 日
●旅行代金：169,000 円（国際航空運賃、空港使用料、中国国内の交通費／食費／宿泊費を含みます。旅券取得費用、海外旅行傷害保険、個人行動時の費用は含みません。GEN 年会費〈一般＝ 12,000 円、学生＝ 3,000 円〉が別途必要です）※中国国际航空／深圳航空利用予定 ※関西空港発着 ※東京発着、北京合流希望の方はご相談ください。



いますぐできる GEN への協力

■会員の輪をひろげよう！

緑の地球ネットワーク会費（年額）	
一般会費	12,000 円
家族会費（同居の家族 2 人目から）	
	6,000 円
学生会員	3,000 円
ジュニア会員（中学生以下）	1,000 円
団体会員	12,000 円
賛助会員	100,000 円
※会費は会報購読料を含んでいます。	

■会報を購読してください！

GEN の活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読していただませんか。年間購読料 2,000 円。

■緑化基金、運営カンパもとむ

金額は自由です。また、緑化基金、運営カンパの別を問わない使途自由のご寄付も受け付けます。その場合、必要に応じて使わせていただきます。

* 緑化基金の 20% は事務管理費になります。

■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。通信費にあてます。
■未使用切手・古切手を集めています
普通切手、記念切手、外国切手なんでも OK。周囲を 1cm ほど残して切り取ってお送りください。

■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。参加可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときに GEN から連絡します。

* * * * *
【GEN への寄付は税制上の優遇措置を受けられます】

緑の地球ネットワークは大阪市に認定された認定 NPO 法人です（期限は

●申込締切：2 月 27 日

●定員：30 人程度

●最少催行人員：8 人

●訪問地：中国河北省張家口市蔚県（北京経由）

●添乗員は同行しません。GEN スタッフ 1 名が関西空港から同行します。

●参加ご希望の方は、GEN 事務所までご連絡ください。資料は（株）マイチケットから発送します。

2019 年 4 月 8 日まで）。

個人による GEN への寄付は、税額控除あるいは所得控除を受けられます。対象となるのは 2,000 円を超える寄付金で、確定申告が必要です。

企業（法人）からの寄付金は一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また、個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定 NPO に寄附すると、相続税の課税対象から除外されます。

GEN の場合、寄付金となるのは緑化基金、運営カンパ、おまかせカンパと会費のうち 1 口を超える部分、賛助会費から 12,000 円を引いた金額です。

また、大阪府民、大阪市民のかたには個人住民税の控除もあります。

くわしくは GEN までご連絡ください。



高校生と世界の現状について考えた1日

岩本 雄真（龍谷大学2年生）

12月23日に大阪国際交流センターで行われた「ワンフェス for Youth」に出展しました。インターンの岩本雄真さんが参加した報告を寄せてくださいました。

わたしは今回、初めてワン・ワールド・フェスティバル for Youth に緑の地球ネットワークの一員として参加させてもらいました。

イベントの目的は、①世界的視野を持って、社会の課題解決に向けて行動を起こす次世代の育成 ②高校生同士の活動のネットワークを築き、横の連携を深める ③高校生が大学やNGOや国際機関とつながることを目的に、「高校生のための国際交流・国際協力EXPO 2016」を開催することだと見てとてもよいイベントだと思いました。

わたしは初めての参加なので、最初はどのような事をするのかなと思いました。いざイベントが始まると、たくさんの高校生や大学生が参加していて驚きました。チラシを持って呼び込みをしていると、高校生の方から「この団体はどのような活動をしているのですか」と質問してきました。わたしが活動の内容を説明しているのを真剣に聞いてくれました。わたしが高校生の頃は、このようなイベントの参加などはなかったのですが、現在の高校生は本当に国際的に物事を考えているのだ



なと思いました。

大学生とも話す機会があったので、諸外国の問題について意見交換しました。また、イベントに参加していた他の団体の方とも様々な意見や疑問を交わすことで世界の国々で直面している問題や現状を知ることができ、改めて自分の考え方が深くなりなした。

今回のイベントに参加でき、とてもよい経験ができました。



珪石採掘跡地に根付いた苗を調べる藤原さん
半分程度がシカに食べられることなく根付き始めていました。

◆飛躍：細々とした関東ランチの試みが大きく飛躍した背景には、国際ボランティア学生協会（IVUSA）の学生たちの力があります。2014年7月、集中豪雨に見舞われた西伊豆町に、GENのネットワークを通じて関係を持ち始めたIVUSAが、災害復興のために駆けつけたのです。その縁から、その後、西伊豆町はIVUSAの活動拠点の1つとなり、毎年、100名前後の学生が全国から訪れるようになりました。

IVUSAが取り組んだ事業の1つが、黄金崎におけるマツ林再生事業。GEN顧問の小川眞先生の指導を仰ぎ、林床の倒木や落ち葉などを取り除き、生存できるマツを選び、その根元に炭を入れたのです。2015年と16年の2月に行われた作業の成果には、目を見張ります。マツは勢いを取り戻し、その根元には菌根菌が共生していることを示すキノコが姿を現し始めています。／

黄土高原史話〈81〉

仏教都市の明と暗（下）

谷口 義介（GEN会員）

北魏の洛陽 1367 寺のうち尼寺はいくつかあるが、都のメインストリート銅駝街の東にある景樂寺もその一つ。例のごとく、『洛陽伽藍記』（入矢義高訳）によって紹介しよう。

「仏堂の棟々がうねうねと連なり、僧坊が曲りくねって建ち並び、軽やかな木の梢は戸を払い、とりどりの花々が庭を蔽っていた。六斎の日には、いつも女性の伶人の歌舞が演ぜられ、その歌声は美しく余韻を響かせ、舞う袖はゆるやかに翻えり、管弦の調べは瀏亮と、天上の楽かとも紛うめでたさであった。」

六斎の日というのは、毎月8・14・15・23・29・30の六日間、昼から食を断って忌み慎む日のこと。女性楽人の歌と踊りは、もちろん仏に捧げるもの。わが平安～鎌倉期、白拍子が奉納する歌

舞といったところだろうか。

「ここは尼寺であるため、男子は立ち入れない定めであったが、参観を許された者は、天国に來た思いをした。」

そりゃそうだろう、尼さんといい伶人といい、女の園なんだから。

境内ではまた、
「ありとあらゆる異国の奇術が、すべてここに集まり、驢馬をばらしたり、地下水を噴き出させたり、また棗や瓜の種を蒔いて、たちまち実をならせて食ってみせたりなど、見物の男も女も目くるめいて茫然の態であった。」

ロバをばらす奇術とはどんなものか。『後漢書』南蛮・西南夷伝によると、後漢の安帝永寧元年（120）、西南夷のある国の王が幻人（奇術師）を献上し



てきた。幻人は「能く変化して火を吐き、自ら支解して牛と馬の頭を易」えた、と。火を吐く術はポピュラーで、長秋寺の4月4日の降誕会でも行われていたが（前回参照）、景樂寺でのロバをばらす奇術とは、ここにいう牛と馬の首を斬ってすぐ代える術かもしれない。

地下から水を噴き出させる術とは、地面に杖を立て呪文を唱えると、そこから水が湧き出すというもので、高僧が示した奇蹟としてよく出てくる話。日本でいえば、弘法井戸の伝説である。ナツメヤウリの種とその果実を取り替える手品など、プロにとっては容易い術だったろう。

それはともかく、見物人は口をあんぐり目はパチクリの状態だったが、「建義の年（528）以後は、都に大乱が続いたため、この奇術は見られなくなった。」

では、景樂寺境内での奇術が中止になった最初の大事件とは、いかなるものだったのか。

城東にある平等寺に金の仏像が祀られており、よく吉兆を示すと評判だったが、

「孝昌三年（527）十二月、この仏像の面に悲しみの表情が現われ、両眼からは涙が垂れ、体じゅうがぐっしょりになっていた。……こんなことが三日続いて止んだ。果たせるかな明くる年四月、爾朱榮が洛陽に攻め入り、百官を誅殺して、屍体は地に塗れた。」

ここにいう孝昌三年の翌年とは、すなわち建義元年（528）。爾朱榮の乱が勃発し、これを境に北魏洛陽の歴史は暗転する。



／◆展望：ここであらためて関東ランチの役割を再検討する時期にさしかかっています。宇久須宿舎も継続することが資金面で難しくなっています。そこで、2017年には原点にもどり、自然から学び、地元とつながり、地に足

の付いた活動を行い、ネットワークの深化を目指します。地元の方の案内を得て、山や里、町を歩きその魅力を発見します。私たちからは緑化の方法を取り入れ、地球温暖化を緩和する生き方を提起する活動を進めて行きたいと

存じます。

こうした活動を通じて、自然と共生してCO₂を出さないクールタウン、将来はこのイメージを世界に発信できればと思います。（文責：上田信）

情報ひろば
いっしょなかたち

第23回

ワン・ワールド・フェスティバル

西日本最大の国際交流のお祭りです。

○日時：2017年2月4日（土）～5日（日）10時～17時

○場所：カンテレ扇町スクエア・北区民センター・扇町公園（地下鉄「扇町」駅直結、JR環状線「天満」駅徒歩3分）

○入場無料・雨天決行

○主催・問い合わせ：ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会事務局（〒540-0026 大阪市中央区本町1-4-12 piaNPO 2階（特活）関西国際交流団体協議会内 tel.06-6944-0407 fax.06-6944-0408 e-mail: onefes@interpeople.or.jp Facebook: <https://www.facebook.com/ONEWORLDFFESTIVALonefes/>）

第20回

六甲奨学金基金のための古本市

阪神大震災をきっかけにできた六甲

*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

奨学基金は兵庫県下の留学生・就学生への奨学金や日本語ボランティア教室を支えており、募金活動の一環として古本市を開催しています。

○受付期間：3月1日～3月31日まで

○送付方法：直接持参または送料送り主負担で送付【注意】汚れのひどいものは不可。辞書、新しい本歓迎。絵本、マンガ、洋書可。雑誌、教科書、参考書、パソコン解説書、文学全集、百科事典などは不可。CDも集めます（VHS、TV番組の録画DVDやコピーCDは不可）。

○送り先・問合せ先：神戸学生青年センター古本市係（〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1 tel. 078-851-2760 fax. 078-821-5878 e-mail: info@ksyc.jp URL: <http://ksyc.jp/>）

水でつながる
自然と人の暮らし

大阪自然環境保全協会40周年記念のシンポジウムです。

○日時：2017年2月19日（日）

午前の部11時からパネル展示・ポスターセッション

午後の部シンポジウム「水でつながる自然と人の暮らし」13時から16時40分まで。記念講演I「飲水水源の上下流連携を関西から」嘉田由紀子氏（びわ湖成蹊スポーツ大学学長）記念講演II「水辺の生きもの環境の保全と再生」高田直俊氏（前大阪自然環境保全協会会長）

○会場：大阪府立大学I-site なんば（大阪市浪速区敷津東2-1-41 南海なんば第1ビル 南海電鉄「なんば駅」下車徒歩約12分）

○定員：200名（申込先着順、参加費無料）

○申込み締切：2月15日（水）

○主催・申込・問合せ：ハガキ・fax・e-mailで下記へ（公社）大阪自然環境保全協会40周年記念シンポジウム実行委員会（〒530-0041 大阪市北区天神橋1-9-13 ハイム天神橋202 tel. 06-6242-8720 fax. 06-6881-8103 e-mail: sympo@nature.or.jp URL: <http://www.nature.or.jp>）